

日野橋架替事業及び 仮橋設置工事について



日野橋の経緯とこれから



1926
大正期では珍しい鋼鈹桁橋



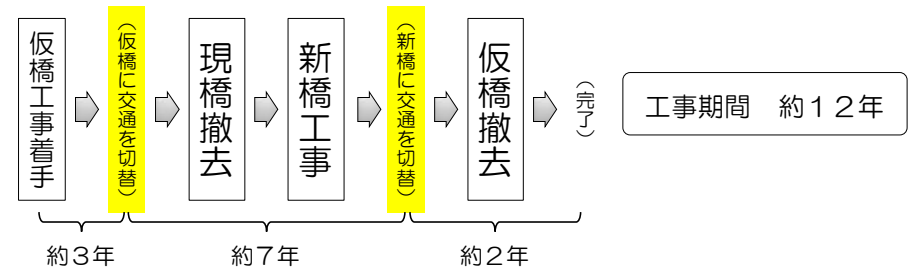
完成イメージ
都民に親しまれる魅力ある橋梁へ



2019
令和元年台風第19号で洗堀被害

- ・地域のシンボルとなる美しい斜張橋を採用
(3径間連続合成斜張橋)
- ・河川内の橋脚数を削減
(現橋18橋脚、新橋2橋脚)

今後の事業スケジュール



東京都南多摩西部建設事務所

問い合わせ先

東京都南多摩西部建設事務所工事課

〒192-0046 東京都八王子市明神町3-19-2

○事業全体に関すること 道路設計担当 電話 042-643-2651

○工事に関すること
(仮橋工事) 道路工事担当 電話 042-643-2657

日野橋架替事業と仮橋設置工事についてのあらまし

日野橋架け替えの必要性

日野橋は一般都道八王子国立線（第256号）の多摩川を渡河する橋梁であり、多摩地域の南北を結ぶ第一次緊急輸送道路です。現在の橋梁は大正15年に完成した橋であり、供用開始後90年が経過しました。橋の設計基準の改定等に伴い、これまでに昭和39年の拡幅工事や昭和49年に補強工事等をはじめ、様々な対策を講じてきました。

橋脚の洗掘防止対策としては、護床ブロック*1を敷詰めていましたが、近年の大雨の激甚化により、徐々に護床ブロック下の河道が侵食され、平成23年9月の台風では、護床ブロックが広範囲に渡って流出する被害が発生しました。また、未曾有の被害をもたらした令和元年台風第19号の洪水により、橋脚1基が沈下し、路面に大きな段差が生じ、令和2年5月12日まで、約7か月の通行止めが発生しました。

応急復旧工事では、被災した橋脚を撤去し、長い1本の橋桁を架設するとともに、護床ブロックの再設置を実施しました。しかしながら、近年の大雨の発生状況を考えれば、老朽化が進行している現在の日野橋を新しく架け替え、長期的な安全性を確保していくことが不可欠です。

以上のことから、日野橋を架け替える必要があります。

*1 護床ブロック：急な流れによって川底が洗掘されないようにするための構造物

仮橋設置工事の概要

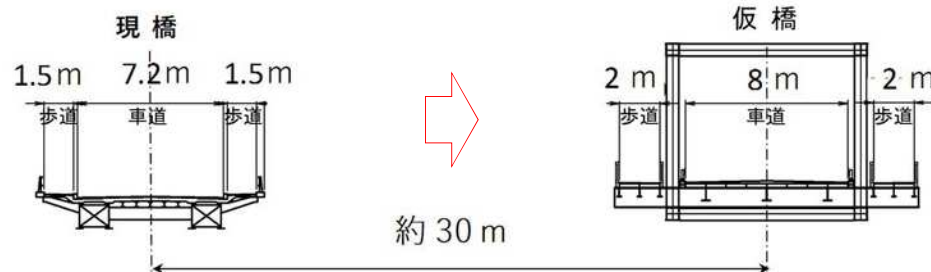
現橋の約30m上流側に仮橋を配置し、交通を切り替えます。

仮橋は、河積阻害*2を極力減らすべく、通常使われている桁橋と比べて、橋脚間を長くすることができるトラス形式*3を採用することで、現在の日野橋より橋脚数を少なくします。（現橋18橋脚、仮橋6橋脚）

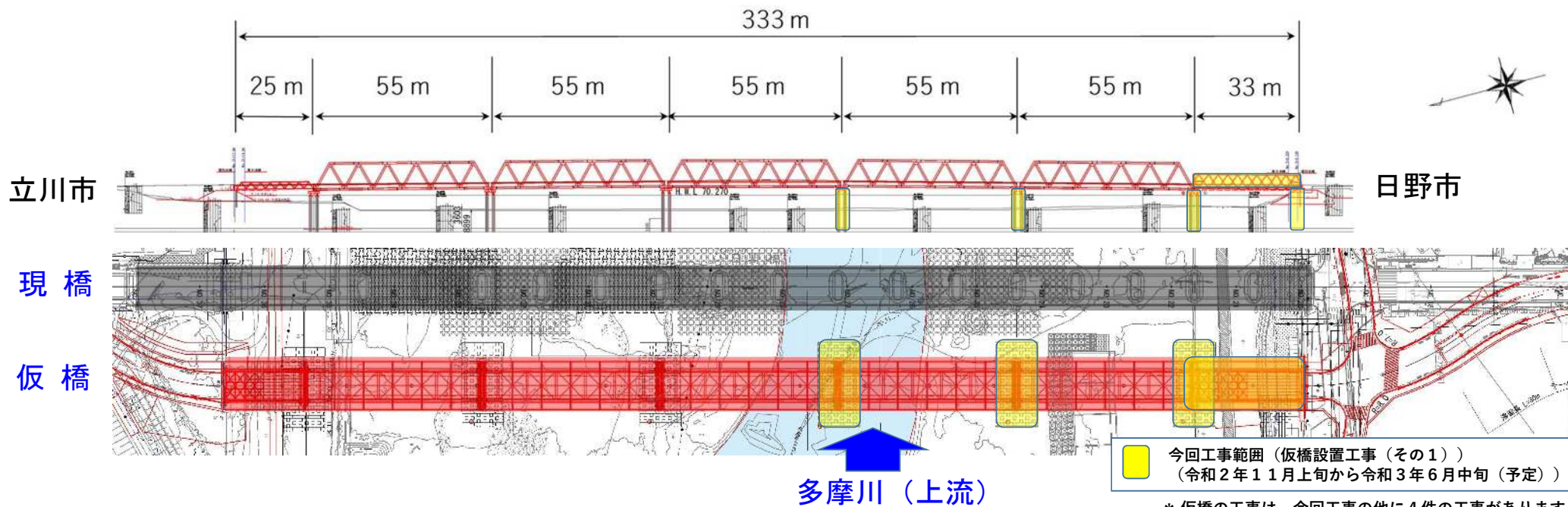
また、トラス形式*3は組立が容易なため、工期の短縮が可能です。

*2 河積阻害：河の流れる部分の障害となり、河の流れが悪くなること

*3 トラス形式：部材同士を三角形につなぎ合わせ、強度を高めた構造形式



* 仮橋の車両・歩行者の通行形態は、現在の日野橋と変わりません



* 仮橋の工事は、今回工事の他に4件の工事があります